

## 監査役会の実効性向上の取り組み

オムロン株式会社

### 1. 監査役会の実効性向上の取り組みの概要

監査役会は、ステークホルダーの負託に応え、持続的な企業価値の向上を実現するための監査活動はどうあるべきかの議論を重ねながら、監査を実施しています。取締役会とは自由闊達に議論を行いながらコーポレート・ガバナンス機能の向上に寄与してまいりました。

また監査活動においては、準拠性監査（\*）、リスクベース・内部統制監査（\*）を深化させるとともに、経営課題（\*）の領域も積極的に監査の対象範囲としました。

（\*）当社監査役会では、準拠性監査を監査 1.0、リスクベース・内部統制監査を監査 2.0、経営課題監査を監査 3.0と呼んでいます。

### 2. 2022年度監査役会の実効性評価

監査役会は、重点監査事項を中心に監査を実施し、その活動について、より多角的・客観的な視点から実効性評価を行いました。

#### 2-1.2022年度監査役会重点監査事項

当事業年度において監査役会は「長期ビジョンおよび中期経営計画の進捗」「地政学リスクへの対応」に加え、「コーポレート IT システムの構築に向けた進捗」「グローバルグループガバナンス」「企業風土変革」や「JMDC 社との提携の進捗」を重点監査事項と位置づけ、監査を行いました。

#### 2-2.2022年度監査役会実効性評価の方法

2022年度は、従前より実施してきた監査役による「無記名式の質問票」を用いた自己評価のみならず、「監査役会による企業価値への貢献度」も自己評価の対象としました。その際、他社監査役会等とのデータ比較や取締役へのアンケートも参考にしております。

#### 2-3.2022年度監査役会実効性評価の結果と課題

監査役会は監査活動から得られた客観性のあるデータの収集・分析を重視し、それらをベースに監査役間でオープンかつ深度ある議論を行い、確認した経営課題については、取締役会において積極的にフィードバックを行いました。

取締役からは、監査役会の活動とさらなる進化への期待が寄せられていますが、とりわけ中長期の経営課題については、監査役会・取締役会間の議論をさらに重ね、絞り込み・深掘りを行うことが課題と認識しています。

また、現場の状況を幅広く確認するとともに、内部監査のあり方に関する提言を含め、監査役会と内部監査部門の連携を強化します。これにより、現場に内在する経営課題を明らかにし、取締役会との議論にも反映させていきます。